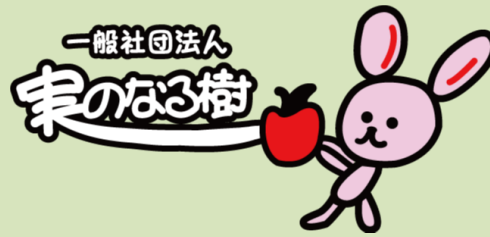




障がいのある人の雇用に取り組む



(京都市中京区)

「京都是あとふる企業」です

【主な事業内容】 就労継続A型事業所、障害児・者相談支援事業

【障がいのある人の主な仕事】 業務管理、利用者の作業指導

【障がい者雇用の経緯】

障害者就労支援事業を立ち上げて5年目になります。障がい者の雇用と自立を支援する法人として、スタッフにおいても障がい者雇用を図る必要があると考えました。現在、障がいのある人が1名働いています(スタッフ5名、利用者20名)。主な業務は、A型事業所の商品の入荷から出荷までの管理や利用者の勤怠管理などの業務管理、利用者への室内作業や民泊での清掃作業の指導などです。



【Gさんに聞きました】

40代で精神障がいを発症し、入院や療養で3年位を費やしました。社会復帰できる感触をつかんだ時、障がいのある人の力になりたいと強く思いました。募集広告を見た時、「ここだ」と思い応募し採用されました。

まだ2年目ですが、ストレスが少なく、自律的にのびのびと働ける環境があります。スタッフや利用者とも仲良く、仕事も段取り良くスムーズにできるようになりました。

将来的に経済的な不安もありますので、働き続けていけるよう体調に気をつけていくことが課題です。

【コミュニケーションを大切に】

精神障がいのある方で通院・服薬もされています。テキパキとしっかりした仕事をされる方なので、過重にならないように特に声かけとコミュニケーションで意思疎通を図り体調を把握するようにしています。少しでも不調な時はすぐに休んでもらいます。休憩時間も弾力的に設定しています。

利用者の特性も伝え話し合っ、作業指導の工夫に活かしてもらいます。利用者の作業はお菓子の箱詰めや袋詰め、民泊の清掃が主ですが、どの作業でも適切に指導されます。

管理者やスタッフは、気になる事があれば、みんなでミーティングをして、問題点を振り返り共有化するようにしています。事業所のすべてのポジションの人に、事業の状況を理解してもらうことを大切に運営に努めています。

そういう職場環境の中で、障がいのある人も臆すること無く働けるとおもいます。今後は、利用者の中からのスタッフ採用も課題だと考えています。